

第7回

# 再臨待望聖会

日本の靈的覚醒 ユダヤ人の救い メシアの再臨

メシアに出会った正統派ユダヤ人が語る

終末論



特別講師：アーヴィン・サルツマン

講師・通訳：中川健一



ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

無断複製・転載を禁じます

## 目次

「メシアに出会った正統派ユダヤ人」 .....	2
「イスラエルの告白 – メシア再臨の引き金」 .....	4
はじめに.....	4
Ⅰ. イエスが再臨する前に起こる必要があること – イスラエルの告白・回心.....	6
Ⅱ. イエスが再臨する前に起こること – イスラエルの告白・回心.....	8
Ⅲ. 私たちの役割は何か.....	12
「患難期のイスラエルに対する戦い – 反メシア、羊、山羊」 .....	14
はじめに.....	14
Ⅰ. 患難期にユダヤ人に対する戦争が起こる。それは人類史上最大の戦いとなる.....	18
Ⅱ. 患難期に起こるユダヤ人に対する戦いで鍵を握る3つのグループ.....	22
結論.....	28
「千年王国説の歴史の変遷」 .....	29
はじめに.....	29
Ⅰ. 千年期前再臨説.....	29
Ⅱ. 無千年王国説.....	30
Ⅲ. 千年期後再臨説.....	31
Ⅳ. 千年王国説の復興.....	32
結論：私たちへの適用.....	33
賛美.....	35

## 「メシアに出会った正統派ユダヤ人」

---

アーヴィン・サルツマン証し

MEMO

## 「イスラエルの告白 — メシア再臨の引き金」

### *Israel's Confession: The Component that Triggers the Second Coming of the Messiah*

アーヴィン・サルツマン

ベス・メサイヤ・ Congrégation

#### はじめに

1. 「引き金 (trigger)」の意味
  - a. 定義 — 何らかの出来事が起こる前に、必ず起こる必要のあること。それが起こらないと何らかの条件が満たされないもの。前提条件と言ってもよい。
  - b. 例：子どもが悪さをして、私が子どもから何かの特権を取り上げたとします。その場合、その子を取り上げられた特権を取り戻すには、自分の態度を改める必要があります。態度を改めることが私との関係を回復する「引き金」となるのです。
2. 何かが引き金となって成就する預言は多い
  - a. メシアの初臨は、エルサレムを再建せよという命令が出てから 69 週後に起こると預言されていた (ダニエル 9 : 25~26。ここで言う「週」は7の意味で、この文脈では7年を指す。つまり69週とは483年のこと)。この命令を出したのがペルシャのアルタクセルクセス王で、紀元前445年のことだった。それから483年ほどたった頃、イエスがエルサレムに入城し、ユダヤ人に向かってご自分がメシアであると宣言された。宗教的指導者たちがイエスを王として受け入れなかった時、イエスは彼らに「神の訪れの時を知らなかった」と語り、さばきを宣告された (ルカ 19 : 41~44)。
  - b. ダニエルの70週目 (7年間の患難期) が始まるしるしは、反キリストがイスラエルと7年間の平和条約を締結すること (ダニエル 9 : 27)。
  - c. メシアの再臨にも引き金となる出来事がある。それが今から語ろうとしている内容である。

## 聖書箇所

## ダニエル 9：25～26

- 25 それゆえ、知れ。悟れ。引き揚げてエルサレムを再建せよ、との命令が出てから、油そそがれた者、君主の来るまでが七週。また六十二週の間、その苦しみの時代に再び広場とほりが建て直される。
- 26 その六十二週の後、油そそがれた者は断たれ、彼には何も残らない。やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。

## ルカ 19：41～44

- 41 エルサレムに近くなったころ、都を見られたイエスは、その都のために泣いて、
- 42 言われた。「おまえも、もし、この日のうちに、平和のことを知っていたのなら。しかし今は、そのことがおまえの目から隠されている。
- 43 やがておまえの敵が、おまえに対して壘を築き、回りを取り巻き、四方から攻め寄せ、
- 44 そしておまえとその中の子どもたちを地にたたきつけ、おまえの中で、一つの石もほかの石の上に積まれたままでは残されない日が、やって来る。それはおまえが、神の訪れの時を知らなかったからだ。」

## ダニエル 9：27

- 27 彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現れる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。」

- d. 一言付け加えると、次に起こると預言されている「携挙」は、患難期とは違っていつ起きてもよい。その前に起こる必要のある出来事はない。これを英語で「imminent」という。
- e. ここで取り上げようとしているテーマは、メシア再臨の引き金となる出来事である。

### 1. イエスが再臨する前に起こる必要があること — イスラエルの告白・回心

- A. イエスはユダヤ人指導者たちに離別の言葉を語られ、ご自分に再び会うためには何をしなくてはならないかを告げられた（**マタイ 23：37～39**）。
  - 1. 「祝福あれ。主の御名によって来られる方に」と言うまで、彼らはメシアに会うことができない。
  - 2. ヘブル文化における「祝福あれ。主の御名によって来られる方に」の意味
  - 3. イエスは、ユダヤ民族全体がイエスを受け入れ、自分たちの王として受け入れるまでは戻ってこられない。
  - 4. イエスの拒絶に代えて、国を挙げてイエスを受け入れる必要がある。
- B. ペテロがユダヤ人たちに悔い改めを求めたのは、神がイエスをユダヤ人のもとに遣わしてくださるよにという思いからだ（**使徒 3：17～21**）。ペテロは、イエスの再臨はイスラエルの悔い改めが条件であり、それが引き金となって起こると理解していた。
- C. パウロは、イスラエルの回心が世界にとって何を意味するのかを語っている（**ローマ 11：12～15**）。

聖書箇所

マタイ 23 : 37~39

- 37 ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。
- 38 見なさい。あなたがたの家は荒れ果てたままに残される。
- 39 あなたがたに告げます。『祝福あれ。主の御名によって来られる方に』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。』

使徒 3 : 17~21

- 17 ですから、兄弟たち。私は知っています。あなたがたは、自分たちの指導者たちと同様に、無知のためにあのような行いをしたのです。
- 18 しかし、神は、すべての預言者たちの口を通して、キリストの受難をあらかじめ語っておられたことを、このように実現されました。
- 19 そういうわけですから、あなたがたの罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。
- 20 それは、主の御前から回復の時が来て、あなたがたのためにメシヤと定められたイエスを、主が遣わしてくださるためなのです。
- 21 このイエスは、神が昔から、聖なる預言者たちの口を通してたびたび語られた、あの万物の改まる時まで、天にとどまっていなければなりません。

ローマ 11 : 12~15

- 12 もし彼らの違反が世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らの完成は、それ以上の、どんなにかすばらしいものを、もたらすことでしょう。
- 13 そこで、異邦人の方々に言いますが、私は異邦人の使徒ですから、自分の務めを重んじています。
- 14 そして、それによって何とか私の同国人にねたみを引き起こさせて、その中の幾人でも救おうと願っているのです。
- 15 もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることではなくて何でしょう。

## II. イエスが再臨する前に起こること — イスラエルの告白・回心

### A. โรม 11 : 24~27

- 24 もしあなたが、野生種であるオリーブの木から切り取られ、もとの性質に反して、栽培されたオリーブの木につがれたのであれば、これらの栽培種のもの、もっとたやすく自分の台木につがれるはずで
- 25 兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思えないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、
- 26 こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりです。「救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。
- 27 これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。」

1. イスラエルがかたくなになったのは部分的
2. イスラエルがかたくなになったのは一時的
3. イスラエルは救われる
4. 救う者が来る

### B. ぜかりヤ 12 : 9~10、13 : 1

- 12:9 その日、わたしは、エルサレムに攻めて来るすべての国々を捜して滅ぼそう。
- 12:10 わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。……
- 13:1 その日、ダビデの家とエルサレムの住民のために、罪と汚れをきよめる一つの泉が開かれる。

1. 神がイスラエルのために戦われる。
2. 神が御霊をイスラエルの上に注ぐと、イスラエルは突き刺された方こそ約束されていたメシアだったということに気づく。
3. 神がイスラエルを罪からきよめる。

MEMO

4. イスラエルの贖罪の日

C. イスラエルの告白 (イザヤ 53 章)

## 聖書箇所

## イザヤ 53 章

- 1 私たちの聞いたことを、だれが信じたか。【主】の御腕は、だれに現れたのか。
- 2 彼は主の前に若枝のように芽ばえ、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない。
- 3 彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。
- 4 まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。
- 5 しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。
- 6 私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。しかし、【主】は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。
- 7 彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。
- 8 しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを。
- 9 彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行わず、その口に欺きはなかったが。
- 10 しかし、彼を砕いて、痛めることは【主】のみこころであった。もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら、彼は未長く、子孫を見ることができ、【主】のみこころは彼によって成し遂げられる。
- 11 彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を彼がになう。
- 12 それゆえ、わたしは、多くの人々を彼に分け与え、彼は強者たちを分捕り物としてわかちとる。彼が自分のいのちを死に明け渡し、そむいた人たちとともに数えられたからである。彼は多くの人々の罪を負い、そむいた人たちのためにとりなしをする。

### Ⅲ. 私たちの役割は何か

- A. ユダヤ人の大宣教命令（[マタイ 28：18～20](#)）
  
- B. 異邦人の大宣教命令（[ローマ 11：11](#)）
  
- C. 祈り、声を上げる（[イザヤ 62：6～7、11～12](#)）
  
- D. 私たちが行う宣教の現在的側面と預言的側面
  - 1. 教会時代のレムナント（残れる者）を起こす。
  - 2. 患難期に証人となる人たちのために種を植えておく。
  - 3. ペテロが私に語ったこと。
  
- E. ユダヤ人伝道には、世界大の利益（[ローマ 11：15](#)）と祝福の約束（[創世記 12：3](#)）が伴っている。

## 聖書箇所

## マタイ 28 : 18~20

- 18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。
- 19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、
- 20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

## ローマ 11 : 11

- 11 では、尋ねましょう。彼らがつまずいたのは倒れるためなのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。

## イザヤ 62 : 6~7、11~12

- 6 エルサレムよ。わたしはあなたの城壁の上に見張り人を置いた。昼の間も、夜の間も、彼らは決して黙ってはいはならない。【主】に覚えられている者たちよ。黙りこんではならない。
- 7 主がエルサレムを堅く立て、この地でエルサレムを栄誉とされるまで、黙ってはいはならない。
- ……
- 11 見よ。【主】は、地の果てまで聞こえるように仰せられた。「シオンの娘に言え。『見よ。あなたの救いが来る。見よ。その報いは主とともにあり、その報酬は主の前にある』と。
- 12 彼らは、聖なる民、【主】に贖われた者と呼ばれ、あなたは、尋ね求められる者、見捨てられない町と呼ばれる。」

## ローマ 11 : 15

- 15 もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることではなくて何でしょう。

## 創世記 12 : 3

- 3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

## 「患難期のイスラエルに対する戦い — 反メシア、羊、山羊」

### *The War Against Israel in the Tribulation: The Anti-Messiah, the Sheep and the Goats*

アーヴィン・サルツマン

ベス・メサイヤ・Congregation

#### はじめに

1. 世界で最も古くからある憎悪は反ユダヤ主義である。つまり、ユダヤ人、ユダヤ民族に対する憎悪である。
  - a. この世にセムの子孫としてユダヤ人が登場して以降、いつの時代にもユダヤ人に対する敵対心や迫害があった。(反ユダヤ主義 Anti-Semitism という言葉はセム人 Semites という言葉から来ている。)
  - b. 歴史上でさまざまなかたちをとって現れ、さまざまな民族や人々が行ってきた。
    - (1) パロとエジプト人 (出エジプト記)
    - (2) ハマン (エステル記)
    - (3) ヒトラーとナチス
    - (4) イスラム世界
2. ここで「なぜ」と問わざるをえない。反ユダヤ主義をどう理解すればいいのか。
  - a. 天上で、神とサタンの中で戦いが行われている (エゼキエル 28 : 12~17、イザヤ 14 : 12~15)

## 聖書箇所

## エゼキエル 28：12～17

- 12 「人の子よ。ツロの王について哀歌を唱えて、彼に言え。神である主はこう仰せられる。あなたは全きものの典型であった。知恵に満ち、美の極みであった。
- 13 あなたは神の園、エデンにいて、あらゆる宝石があなたをおおっていた。赤めのう、トパーズ、ダイヤモンド、緑柱石、しまめのう、碧玉、サファイヤ、トルコ玉、エメラルド。あなたのタンバリンと笛とは金で作られ、これらはあなたが造られた日に整えられていた。
- 14 わたしはあなたを油そそがれた守護者ケルブとともに、神の聖なる山に置いた。あなたは火の石の間を歩いていた。
- 15 あなたの行いは、あなたが造られた日からあなたに不正が見いだされるまでは、完全だった。
- 16 あなたの商いが繁盛すると、あなたのうちに暴虐が満ち、あなたは罪を犯した。そこで、わたしはあなたを汚れたものとして神の山から追い出し、守護者ケルブが火の石の間からあなたを消えうせさせた。
- 17 あなたの心は自分の美しさに高ぶり、その輝きのために自分の知恵を腐らせた。そこで、わたしはあなたを地に投げ出し、王たちの前に見せものとした。

## イザヤ 14：12～15

- 12 暁の子、明けの明星よ。どうしてあなたは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしてあなたは地に切り倒されたのか。
- 13 あなたは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山にすわろう。』
- 14 密雲の頂に上り、いと高き方のようになろう。』
- 15 しかし、あなたはよみに落とされ、穴の底に落とされる。

- b. 女の子孫と蛇の子孫の間に敵意がある（創世記 3：15）
- c. 神はどの時代にもレムナント／イスラエルの民を残しておく約束された（エレミヤ 31：35～37。参照：1 サムエル 12：22、詩篇 94：14）
  - (1) サタンがイスラエルを滅ぼすことができたなら、神の約束の成就を妨げることができる。そうすると、神の約束の信頼性が失われる。
  - (2) サタンの方が神よりも強いことを示すことができる。（神はイスラエルを悪い者の攻撃から守ることができないと示すことができる）
- d. サタンがイスラエル、ユダヤ民族を滅ぼすことができれば、神の贖いの計画を土台から崩すことができる。
  - (1) もしサタンが旧約時代にユダヤ民族を滅ぼすことができているならば、メシアの初臨を妨ぐことができた。メシアが生まれてくる民族が滅びれば、メシアが世に来ることができなくなる。
  - (2) 新約時代以降にサタンがユダヤ民族を滅ぼせば、イエスの再臨を妨ぐことができる。
- e. 反ユダヤ主義の中心にはサタンがいると私は信じている。反ユダヤ主義は、神の目的が実現することを妨げ、神のご計画に敵対するためにサタンがこの地上で採用する主な戦略である。

## 聖書箇所

## 創世記 3 : 15

- 15 わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み碎き、おまえは、彼のかかとかみつく。」

## エレミヤ 31 : 35~37

- 35 【主】はこう仰せられる。主は太陽を与えて昼間の光とし、月と星を定めて夜の光とし、海をかき立てて波を騒がせる方、その名は万軍の【主】。
- 36 「もし、これらの定めがわたしの前から取り去られるなら、——【主】の御告げ——イスラエルの子孫も、絶え、いつまでもわたしの前で一つの民をなすことはできない。」
- 37 【主】はこう仰せられる。「もし、上の天が測られ、下の地の基が探り出されるなら、わたしも、イスラエルのすべての子孫を、彼らの行ったすべての事のために退けよう。——【主】の御告げ——

Ⅰ. 患難期にユダヤ人に対する戦争が起こる。それは人類史上最大の戦いとなる

- A. ヘブル語聖書／旧約聖書はその戦いを預言している。
1. この時は「ヤコブの苦難の時」と呼ばれている（**エレミヤ 30：3～11**）。
  2. 終わりの時に、世界中の国々が連合軍をつくってイスラエルに攻め上ってくる（**ゼカリヤ 12：1～3、9**）。

聖書箇所

エレミヤ 30 : 3~11

- 3 見よ。その日が来る。——【主】の御告げ——その日、わたしは、わたしの民イスラエルとユダの繁栄を元どおりにすると、【主】は言う。わたしは彼らをもその先祖たちに与えた地に帰らせる。彼らはそれを所有する。」
- 4 【主】がイスラエルとユダについて語られたことばは次のとおりである。
- 5 まことに【主】はこう仰せられる。「おののきの声を、われわれは聞いた。恐怖があって平安はない。
- 6 男が子を産めるか、さあ、尋ねてみよ。わたしが見るのに、なぜ、男がみな、産婦のように腰に手を当てているのか。なぜ、みな顔が青く変わっているのか。
- 7 ああ。その日は大なる日、比べるものもない日だ。それはヤコブにも苦難の時だ。しかし彼はそれから救われる。
- 8 その日になると、——万軍の【主】の御告げ——わたしは彼らの首のくびきを砕き、彼らのなわめを解く。他国人は二度と彼らを奴隷にしない。
- 9 彼らは彼らの神、【主】と、わたしが彼らのために立てる彼らの王ダビデに仕えよう。
- 10 わたしのしもべヤコブよ。恐れるな。——【主】の御告げ——イスラエルよ。おののきな。見よ。わたしが、あなたを遠くから、あなたの子孫を捕囚の地から、救うからだ。ヤコブは帰って来て、平穏に安らかに生き、おびえさせる者はだれもない。
- 11 わたしがあなたとともにいて、——【主】の御告げ——あなたを救うからだ。わたしは、あなたを散らした先のすべての国々を滅ぼし尽くすから。しかし、わたしはあなたを滅ぼし尽くさない。公義によって、あなたを懲らしめ、あなたを罰せずにおくことは決してないが。」

ゼカリヤ 12 : 1~3、9

- 1 宣告。イスラエルについての【主】のことば。——天を張り、地の基を定め、人の霊をその中に造られた方、【主】の御告げ——
- 2 見よ。わたしはエルサレムを、その回りのすべての国々の民をよるめかす杯とする。ユダについてもそうなる。エルサレムの包囲されるときに。
- 3 その日、わたしはエルサレムを、すべての国々の民にとって重い石とする。すべてそれがかつぐ者は、ひどく傷を受ける。地のすべての国々は、それに向かって集まって来よう。
- .....
- 9 その日、わたしは、エルサレムに攻めて来るすべての国々を捜して滅ぼそう。

3. 戦争はいまだかつてなかったほどの激しい戦いとなる（ダニエル 12：1、ゼカリヤ 13：8～9）。それはナチスのホロコーストも比較にならないほど凄絶を極めたものとなる。
- B. 新約聖書もそれを預言している（黙示録 12：1～17）。

聖書箇所

ダニエル 12：1

- 1 その時、あなたの国の人々を守る大いなる君、ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来、その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。しかし、その時、あなたの民で、あの書にしるされている者はすべて救われる。

ゼカリヤ 13：8～9

- 8 全地はこうなる。——【主】の御告げ——その三分の二は断たれ、死に絶え、三分の一がそこに残る。
- 9 わたしは、その三分の一を火の中に入れ、銀を練るように彼らを練り、金をためすように彼らをためす。彼らはわたしの名を呼び、わたしは彼らに答える。わたしは「これはわたしの民」と言い、彼らは「【主】は私の神」と言う。

黙示録 12：1～17

- 1 また、巨大なしるしが天に現れた。ひとりの女が太陽を着て、月を足の下に踏み、頭には十二の星の冠をかぶっていた。  
.....
- 7 さて、天に戦いが起こって、ミカエルと彼の使いたちは、竜と戦った。それで、竜とその使いたちは応戦したが、
- 8 勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。
- 9 こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。
- 10 そのとき私は、天で大きな声が、こう言うのを聞いた。「今や、私たちの神の救いと力と国と、また、神のキリストの權威が現れた。私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。  
.....
- 13 自分が地上に投げ落とされたのを知った竜は、男の子を産んだ女を追いかけた。
- 14 しかし、女は大鷲の翼を二つ与えられた。自分の場所である荒野に飛んで行って、そこで一時と二時と半時の間、蛇の前をのがれて養われるためであった。
- 15 ところが、蛇はその口から水を川のように女のうしろへ吐き出し、彼女を大水で押し流そうとした。
- 16 しかし、地は女を助け、その口を開いて、竜が口から吐き出した川を飲み干した。
- 17 すると、竜は女に対して激しく怒り、女の子孫の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを保っている者たちと戦おうとして出て行った。

## II. 患難期に起こるユダヤ人に対する戦いで鍵を握る3つのグループ

### A. 反キリスト／反メシア（ユダヤ人に対する迫害を指揮）

#### 1. ダニエル 9：24～27

- 24 あなたの民とあなたの聖なる都については、七十週が定められている。それは、そむきをやめさせ、罪を終わらせ、咎を贖い、永遠の義をもたらし、幻と預言とを確証し、至聖所に油をそそぐためである。
- 25 それゆえ、知れ。悟れ。引き揚げてエルサレムを再建せよ、との命令が出てから、油そそがれた者、君主の来るまでが七週。また六十二週の間、その苦しみの時代に再び広場とほりが建て直される。
- 26 その六十二週の後、油そそがれた者は断たれ、彼には何も残らない。やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。
- 27 彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現れる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。」

#### 2. 2テサロニケ 2：1～10

- 1 さて兄弟たちよ。私たちの主イエス・キリストが再び来られることと、私たちが主のみもとに集められることに関して、あなたがたにお願いすることがあります。
- 2 霊によってでも、あるいはことばによってでも、あるいは私たちから出たかのような手紙によってでも、主の日がすでに来たかのように言われるのを聞いて、すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください。
- 3 だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。
- 4 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。
- 5 私がまだあなたがたのところをいたとき、これらのことをよく話しておいたのを思い出しませんか。
- 6 あなたがたが知っているとおりに、彼がその定められた時に現れるようにと、いま引き止めているものがあるのです。
- 7 不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。
- 8 その時になると、不法の人が現れますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。

MEMO

- 9 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、
- 10 また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行われます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。

B. 羊 (マタイ 25 : 31~40)

C. 山羊 (マタイ 25 : 41~46)

## 聖書箇所

## マタイ 25 : 31~40

- 31 人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。
- 32 そして、すべての国々の民が、その御前に集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼らをより分け、
- 33 羊を自分の右に、山羊を左に置きます。
- 34 そうして、王は、その右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。
- 35 あなたがたは、わたしが空腹であったとき、わたしに食べる物を与え、わたしが渴いていたとき、わたしに飲ませ、わたしが旅人であったとき、わたしに宿を貸し、
- 36 わたしが裸のとき、わたしに着る物を与え、わたしが病気をしたとき、わたしを見舞い、わたしが牢にいたとき、わたしをたずねてくれたからです。』
- 37 すると、その正しい人たちは、答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹なのを見て、食べる物を差し上げ、渴いておられるのを見て、飲ませてあげましたか。
- 38 いつ、あなたが旅をしておられるときに、泊まらせてあげ、裸なのを見て、着る物を差し上げましたか。
- 39 また、いつ、私たちは、あなたのご病気やあなたが牢におられるのを見て、おたずねしましたか。』
- 40 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』

## マタイ 25 : 41~46

- 41 それから、王はまた、その左にいる者たちに言います。『のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火に入れ。
- 42 おまえたちは、わたしが空腹であったとき、食べる物をくれず、渴いていたときにも飲ませず、
- 43 わたしが旅人であったときにも泊まらせず、裸であったときにも着る物をくれず、病気のときや牢にいたときにもたずねてくれなかった。』
- 44 そのとき、彼らも答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹であり、渴き、旅をし、裸であり、病気をし、牢におられるのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』
- 45 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、おまえたちに告げます。おまえたちが、この最も小さい者たちのひとりにしなかったのは、わたしにしなかったのです。』
- 46 こうして、この人たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入るのです。』

D. 救う者 vs 傍観者と協力者

1. ディートリッヒ・ボンヘッフアー
2. コリー・テン・ブーム一家
3. 杉原千畝
4. ジャン・カルスキ
5. ミコライ・ペルナット
6. 神の民／羊の人々は、ユダヤ人に対する接し方・関係でそれだとわかる
7. 神の外交方針（創世記 12：1～3）
8. 人体実験で知られるナチスの医師ヨーゼフ・メンゲレは、アウシュビッツ・ビルケナウ強制収容所で、収容される人々の選別作業を指揮していた。メンゲレは、働く力のある者は右に並ばせ、その人たちは生きることが許された。体の弱った者、女性、子どもたちは左に並ばせ、ガス室に直行させた。なんという皮肉だろうか。「What goes around, comes around（自分のしたことはめぐりめぐって自分に帰ってくる）」という言葉がある。神はいつものろいには同じのろいで返される。  
「あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される」（創世記 12：3。神のイスラエルに関する外交方針）

聖書箇所

創世記 12：1～3

- 1 【主】はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。
- 2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。
- 3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

結論

1. 反ユダヤ主義が最高潮に達し、最も凄惨を極めるのは患難期である。ユダヤ人を抹殺するためにサタンが反メシアを介して仕掛ける戦争が、反ユダヤ主義の最高潮である。サタンがもたらそうとしているのは、正真正銘の「ユダヤ人問題の最終的解決 (Final Solution)」である。
2. 反キリストのほかに、ここで2つのグループの人々、「羊」と「山羊」が登場する。「羊」はユダヤ人を救う人々、「山羊」は傍観者と反キリストの協力者である。前者は神の祝福を受けて御国に入る。後者は神のさばきを受け、永遠の死を味わうことになる。
3. 今でもすでに反ユダヤ主義の高まりを世界中で見ることができる。ヨーロッパのユダヤ人は命の危険を感じて生活している（フランス、ベルギー、オランダ、ハンガリーなど）。
4. 緊迫感を持って福音を宣べ伝え、次の世代の「救い出す者」を起こす必要がある。
5. 究極的な救い出す者、メシアであるイエスを宣べ伝える必要がある。
6. 「わが民を救い出せ」

## 「千年王国説の歴史的変遷」

中川健一

ハーベスト・タイム・ミニストリーズ代表

### はじめに

1. Premillennialism (千年期前再臨説)
  - ①キリストは、地上に神の国を設立するために戻って来られる。
  - ②その神の国は、この地上で千年間続く。
  
2. Amillennialism (無千年王国説)
  - ①無千年王国説は、地上に文字通りの神の国が出現するわけではないとする。
  - ②この意味での神の国は、今の時代の教会からなっている。
  - ③メシアの再臨後、すぐに永遠の秩序が始まる。
  
3. Postmillennialism (千年期後再臨説)
  - ①キリストは、千年王国（神の国）が成就した後に再臨される。
  - ②地上には文字通りの神の国が出現する。
  - ③人間の努力によって（科学や文明の進歩）、理想的な状況が訪れる。
  
4. アウトライン
  - (1) 千年期前再臨説
  - (2) 無千年王国説
  - (3) 千年期後再臨説
  - (4) 千年王国説の復興
  
5. 結論：私たちへの適用

### 1. 千年期前再臨説

1. 初期の教会の指導者たちの見解
  - (1) 最初、Premillennialism (千年期前再臨説) は、キリアズムと呼ばれた。
    - ①紀元 1～3 世紀には、これが正統的な信者の中で最も支持を集めた説である。

## 2. 歴史家の証言

- (1) 歴史家たちは、キリアズムが原初的終末論であったことを認めている。
- (2) エドワード・ギボン (Edward Gibbon) (1737 - 1794 年)
- (3) アドルフ・ハルナック (Adolph Harnack)
  - ①「この信仰は非常に早い時期から見られるものであり、キリスト教信仰の不可欠の要素と見なすべきではないかと思う」

## II. 無千年王国説

### 1. 東方教会における千年期前再臨説の否定

- (1) 2世紀、東方のギリシア教会の中から無千年王国説を主張する者が現れた。
  - ①5世紀までに、無千年王国説が主流になる。
  
- (2) 千年期前再臨説の否定が広がった理由
  - ①ローマ帝国による迫害
    - \*千年期前再臨説を唱えることは、ローマ帝国との軋轢を増すことになる。
  - ②教会制度への脅威
    - \*千年期前再臨説の強調は、現存する教会への脅威である。
  - ③東方教会における反ユダヤ的傾向
    - \*異邦人クリスチャンたちがユダヤ人を「キリスト殺し」と呼ぶようになった。
    - \*ユダヤ的なものはなんでも否定するようになった。
    - \*千年期前再臨説の希望は、本来ユダヤ的なものである。
  - ④新神学の影響
    - \*アレキサンドリヤ神学と呼ばれるもので、ギリシア教会で発展した。
    - \*オリゲネス (185~253年) や他の学者たちは、ギリシア哲学とキリスト教神学の融合を目指し、アレキサンドリヤ神学と呼ばれる新神学が誕生した。
    - \*一般的にギリシア哲学では、物質的なものは本来的に悪であり、完全に霊的なものこそ善であると考えられた。
    - \*オリゲネスは旧約預言に比喩的解釈を施し、千年期前再臨説を否定した。
    - \*ギリシア教会は、オリゲネスの解釈を広く採用した。

### 2. 西方教会における千年期前再臨説の否定

- (1) 4世紀以降、千年期前再臨説に対する反抗が始まる。
  - ①アレキサンドリヤ神学が紹介された。
  - ②ヒエロニムス (Jerome、345~420年) や (アンブローズ Ambrose、ミラノの司教) によってもたらされた。

- (2) アウグスチヌス（354～430年）は、千年期前再臨説から無千年王国説に立場を変更した。
- ①ローマ帝国は崩壊しても、教会は支配領域を拡大していった。
  - ②この状況で、アウグスチヌスは、千年期前再臨説は時代遅れだと考えた。
  - ③聖徒たちは今、キリストとともに御国を統治している。
  - ④彼もまた、ギリシア哲学の影響を受けた。
- (3) アウグスチヌス以降
- ①アウグスチヌスの比喩的千年王国説が教会の正統的な教理となった。
  - ②中世期に、ローマ・カトリック教会は、無千年王国説を強力に推し進めた。
  - ③宗教改革の時代、多くのアナバプテストは千年期前再臨説を採用した。
  - ④ルーテル派、改革派、聖公会は：
    - \*千年期前再臨説を「ユダヤ的な見解」として退けた。
    - \*彼らは、アウグスチヌスの無千年王国説を採用した。

### III. 千年期後再臨説

1. 無千年王国説の否定
- (1) 17世紀になって知的革命が起こり、無千年王国説を否定する者が出て来た。
  - (2) ヨーロッパの知識階級は、宇宙の字義通りの理解に非常に興味を持った。
    - ①やがて、字義通りの解釈は、聖書学者にも影響を与えるようになった。
2. 千年期後再臨説の出現と発展
- (1) 17世紀の学者で、文字通りの御国の成就を信じながら、千年期前再臨説を採用しない者たちが出て来た。
  - (2) この第3の立場が、千年期後再臨説である。
    - ①将来、教会に黄金時代が来るという教えは、人々が聞きたかったものである。
    - ②理想郷は、人間の努力を通して徐々に進歩し、実現する。
    - ③理想郷は、キリストの再臨によって成就するのではない。
  - (3) 保守的千年期後再臨説と自由主義的千年期後再臨説がある。
    - ①人間の罪性を認めるかどうか。
    - ②イエス・キリストは救い主か、教師か。
    - ③聖書が語る福音か「社会的福音」か。
  - (4) 第三共和政フランスの人々が自由の女神像をアメリカに贈った（1886年）。
    - ①この行為は、自由主義的な千年期後再臨説の表現である。

②贈呈したフランス人は、アメリカの独立とフランス革命が、民衆を専制君主の圧制から解放すると信じた。

③特に、アメリカが民主主義を通して、世界を自由の時代へと導くと信じた。

### 3. 千年期後再臨説の衰退

(1) 千年期後再臨説は、19世紀のプロテスタントの主要な終末論であった。

①カルビン主義、アルメニウス主義、ユニテリアンはみなこれを採用した。

②社会の進歩があり、大英帝国を中心にほぼ100年の平和が続いた。

(2) 1914年の第一次世界大戦が状況を変えた。

①人類の罪性がそれまでの時代以上に明確に現れた。

②多くの牧師が、この戦争はすべての戦争を終わらせるための戦いである、それゆえ、勇敢に戦えとメッセージをした。

(3) 米国大統領ウィルソン

①彼は、民主主義を守るために、アメリカの参戦を決意した。

②戦後、国際連盟の創設に尽力し、話し合いによる平和を夢見た。

③しかし、国際連盟は数年で失敗に終わった。

(4) 1930年代に世界恐慌が襲った。

①ナチスはユダヤ民族を抹殺しようとした。

(5) 1930年代後半に、第二次世界大戦が勃発した。

①世界は、原子力時代に突入した。

②千年期後再臨説が描く将来像は、現実にマッチしなくなった。

③その結果、千年期後再臨説はほとんどの支持者を失った。

## IV. 千年王国説の復興

### 1. 千年期前再臨説の復興

(1) 19世紀に入ると、千年期前再臨説は復興し始めた。

①感情主義ではなく、神の国に関する聖書の教えの組織的学びが始まった。

②神の靈感と聖書の権威に対する信仰が、その土台にあった。

(2) 19世紀の千年期前再臨説の復興は、英国で始まった。

①ディスペンセーションナリズムに基づく千年期前再臨説が発展した。

②19世紀の第3四半期に米国で広まった。

(3) 復活した千年期前再臨説は、19世紀と20世紀の根本主義運動において主要な役割を果たした。

### 2. 無千年王国説の復興

- (1) 20世紀に起きた悲劇により、ほとんどの千年期後再臨説者が、その立場を放棄した。
- (2) 2つのオプション
  - ①千年期前再臨説を採用した場合
    - \*字義通りの神の国が成就するという確信を保持できる。
    - \*しかし、神の国が成就する方法について考え方を変更する必要がある。
  - ②無千年王国説を採用した場合
    - \*字義通りの解釈と、字義通りの神の国の成就を放棄する必要がある。
- (3) 千年期後再臨説者のほとんどが、無千年王国説を採用した。
  - ①この変更は、無千年王国説の復興をもたらした。
  - ②カトリック教会と東方正教会は、一貫して無千年王国説を採用してきた。
  - ③そこにプロテスタントが加わり、20世紀半ばには、無千年王国説がキリスト教界の過半数の見解となった。

### 3. 千年期後再臨説の復興

- (1) 世俗的で反キリスト教的な千年期後再臨説
  - ①人間の努力で地上にユートピア時代をもたらすことは可能だという確信
  - ②科学的手法が有効であると主張する人もいる。遺伝子工学の発展。
- (2) 保守的千年期後再臨説
  - ①改革派（契約神学）の神学的伝統の中から出て来た。
  - ②モーセの律法に従って世界大の王国を造ることは、クリスチャンの使命。

### 結論：私たちへの適用

1. 千年期前再臨説は、教会の最初の見解であった。
2. しかも、聖書を字義通りに読んだ結果でてくる結論である。
3. アダム の 墮落により、サタンは地上の統治権を奪った。
4. 普遍的王国は神のものであり、地上の所有権も依然として神のものである。
  - (1) 地上の神政政治だけが、人類の墮落とともに終わったのである。
5. 千年王国は、最初にあった地上における神政政治の回復である。
  - (1) もし地上の神政政治の回復がないなら、神はサタンに敗北したことになる。

6. 神の国が私たちに与える希望

- (1) 神は主権をもって人類の歴史を導いておられるという確信
- (2) 最終的に、善が悪に勝利するという確信
- (3) キリストの再臨（携挙と地上再臨）を待ち望む生活
- (4) 天において愛する者たちと再会し、栄光のキリストを仰ぎ見るという希望
- (5) イエス・キリストにあって救われているということへの感謝
- (6) 聖書が神のことばであるというより深い確信
- (7) 神の栄光という概念の重要性の再確認

## 賛美

## Standing on the Promises

## さかえの王にます主の

「この天地は滅び去ります。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません」

(マタ 24 : 35)

R. Kelso Carter, 1886

1. さかえの王にます主の みことばに堅く立ちて  
神には見栄えあれと 高く歌い叫ばん

立て 立て  
永遠 (とわ) に変わらぬみことばを  
信じ 立て 神のみことばに立て

2. 世は変わるとも変わらぬ みことばに堅く立ちて  
惑い恐れ of 嵐に 心は乱されじ

3. 全く罪をきよめんと of みことばに堅く立ちて  
君の血潮を受けしに 自由の身となれり

4. 愛もて主に結びつき みことばに堅く立ちて  
悪魔に向かえば常に 勝ちえて余りあり

## Hevenu Shalom Alechem

## へべヌ シャローム

(私たちはあなた方に平和をもって来ました)

へべヌ シャローム アレヘム  
へべヌ シャローム アレヘム  
へべヌ シャローム アレヘム  
へべヌ シャローム シャローム シャローム アレヘム

【意味】 へべヌ シャローム アレヘム  
(私たちはもって) (平和を) (あなた方に)

## 「輝け主の栄光」

愛の光かがやき 暗闇を照らしだす  
わが主イエス世の光 自由を与えるちから  
いのちの みことば

輝け 主の栄光 地の上に  
こころを 燃やしたまえ  
あふれよ 主の恵み あわれみ  
この地を 生かしたまえ

## Amazing Grace 驚くばかりの

「あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです」  
(エペソ 2:5)

John Newton, 1725 – 1807

1. 驚くばかりの 恵みなりき  
この身の汚れを 知れるわれに
2. 恵みはわが身の 恐れを消し  
任（まか）する心を 起こさせたり
3. 危険をも畏をも 避け得たるは  
恵みのみわざと 言うほかなし
4. 御国につく朝 いよよ高く  
恵みの御神を たたえまつらん

## Hinne Ma-tov Umanaim ヒネイ・マトーブ・ウマナイム

(兄弟が共に座すことはすばらしい)

「見よ。兄弟たちが一つになって共に住むことは、なんというしあわせ、なんという楽しさであろう」

(詩篇 133 : 1)

ヒネイ マトーブ ウマナイム  
シェベト アヒーム ガム ヤハド  
(繰り返し)

### 【意味】

ヒネイ マ トーブ ウマ ナイム  
(見よ) (何と) (良いことだろう) (何と) (心地良い事か)  
シェベトアヒーム ガム ヤハド  
(兄弟たちが座し) (共に) (一緒に)

## Hodu l'Adonai ki Tov ホドゥ ラドナイ キー トヴ 主に感謝せよ

「【主】に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで」(詩篇 136:1)

Batya Sebastian

ホドゥ ラドナイ キー トヴ  
キ レ オラム ハスド  
ホドゥ ラドナイ キー トヴ  
キ レ オラム ハスド  
ホドゥ ホドゥ ホドゥ ホドゥ ホドゥ ラドナイ キー トヴ  
ホドゥ ホドゥ ホドゥ ホドゥ ホドゥ ラドナイ キー トヴ

主に 感謝せよ  
主は まことに  
いつくしみ 深くあり  
恵みは とこしえに  
感謝 感謝 感謝 感謝 感謝せよ 主に  
感謝 感謝 感謝 感謝 感謝せよ 主に

### 【意味】

ホドゥ ラドナイ キー トヴ  
(感謝せよ) (主に) (良い方に)  
キ レ オラム ハスド※  
(とこしえまで) (恵みは)

※「ハスド」は「契約に基づいた恵み」という意味

## When the trumpet of the Lord shall sound 世の終わりのラッパ

「ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです」

(1 コリ 15 : 52)

James M. Black, 1893

1. 世の終わりのラッパ鳴りわたるとき  
世は常世（とこよ）の朝となり  
救われし者は四方（よも）の隅（すみ）より  
すべて主のもとに呼ばれん  
  
その時わが名も その時わが名も  
その時わが名も 呼ばれなば必ずあらん
2. そのとき眠れる聖徒よみがえり  
栄えのからだに変わり  
われらも共にたずさえ上げられ  
空（そら）にて主に会いまつらん
3. 世のわざを終えて  
天（あま）つ憩（いと）いに招かるる日  
近ければなおも 主の愛を世人（よびと）に語り  
御栄えのために尽くさん

## さらに聖書を学びたい方へ

聖書の学びに役立つ情報やメッセージが、以下のウェブサイトで提供されています。

### メッセージステーション

中川健一牧師による聖書解説メッセージが、インターネット上の「メッセージステーション (<http://www.harvesttime.tv/>)」で無料配信されています。聖書がヘブル的（ユダヤ的）視点で解き明かされています。

なお、メッセージステーションのメッセージは以下のサイトでも配信されています。

#### 音声

- (1) Apple iTunes Store（「メッセージステーション」で検索。
- (2) <http://message-station.audio>

#### 動画

- (1) YouTube (<http://www.youtube.com/user/HarvestTimeMin>)
- (2) Vimeo (<http://vimeo.com/harvestjapan/>)

### メッセージステーション・アプリ

スマートフォンやタブレットをご使用の方は、メッセージステーションのアプリもご利用いただけます (<http://subsplash.com/messagestation/app>)。Apple App Store または Google Play ストアにて、「ハーベスト・タイム・メッセージステーション」アプリをダウンロードしてください。聞きたいメッセージにすぐにアクセスできます。

### 聖書入門.com

聖書入門.com (<http://seishonyumon.com/>) は、初心者向けに聖書を解説したサイトです。その中でも、中川健一牧師が聖書やキリスト教に対する疑問に3分間で答える動画、「3分でわかる！聖書」が好評です。コンテンツは頻繁に更新されますので、定期的にサイトを訪れてみてください。

### オンラインショップ

ハーベスト・オンラインショップ (<http://harvestshop.net/>) では、電子書籍『クレイ聖書解説コレクション』をはじめ、聖書を本格的に学ぶための書籍やDVD、CDを購入できます。